



「医療専攻」たより

新潟県立小出高等学校 キャリア教育委員会
Vol.3 令和2年10月13日

10月2日(金)に、魚沼の最先端医療にふれ、地域完結型医療への理解を深める目的で、魚沼基幹病院を見学させていただきました。鈴木院長を始め、各講師の方々の講義の後、事前をお願いした質問事項にお答えいただきました。その後、病院施設の見学をさせていただきました。生徒の記録から、講義・見学内容、感想を掲載します。

【講義】

(1)「DMAT(災害派遣医療チーム)と救命救急外傷センター看護師の仕事内容、困難、やりがいについて」

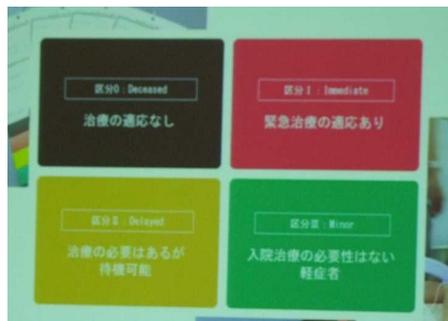
- ・DMATは1995年の阪神淡路大震災をきっかけに2005年に誕生した災害派遣医療チーム
- ・災害現場に赴き、病院支援や搬送、現地活動を行う
- ・限りある物資で治療を行い、治療の優先順位を決定すること(トリアージ)もある
- ・中越地震、東日本大震災、豪雨災害、ダイヤモンドプリンセス号の乗客対応など様々な現場で活動
- ・魚沼基幹病院では、三次救急(治療に緊急性が高く、専門性が必要とされる重篤な患者)に対応しており、病棟看護師以外に救急看護師も働いている。両者の仕事内容に大きな違いはないが、救急看護師は死と隣り合わせの患者さんに対応することが多い。

(2)「地域周産期母子医療センターの助産師さんの仕事内容、困難、やりがい」

- ・周産期とは出産前後の時期であり、当施設は産科と新生児科が合体した施設である。
- ・新生児の集中治療を取り扱っており、昨年度は出生児の13%が集中治療室に入院した。
- ・母子が同じ病院で治療を受けられ、家族の面会も24時間可能(※)であるため、赤ちゃん、母親、家族にとって安心して医療を受けられるのが最大の特徴である。※現在は面会時間に制限あり
- ・魚沼地域の産科や助産師、保健師などに情報提供やサポートを行うなど、この地域の産科の取りまとめとしての役割を担っている。



DMATの訓練や活動風景。災害発生から48時間～72時間を目処に活動する



トリアージの段階について。少しでも助かりそうな患者から治療するのが鉄則

【院内見学】



自動で調剤を行う機械を見学



数億円する放射線治療の機械を見学



検査科では、PCR検査についてのお話も伺えました



ドクターヘリのヘリポートで記念撮影

【生徒の感想】

- ・基幹病院と魚沼地区のその他の病院との違いを知ることができました。
- ・救急医療の現場は、一瞬の判断が生死を分けるのでとても緊張感がある現場だと感じました。そのような現場で働いている方からお話を聞くことができとても貴重な経験になりました。
- ・DMATは地震以外にも、様々な自然災害や大規模な事件等にも出動していることがわかりました。自然災害が多い日本では、なくてはならない存在だと思います。
- ・トリアージの話も聞いて、多くの命を助けることは重要なことですが、そのために命の順位をつけなくてはならないことはとても辛いことだと思いました。
- ・ヘリポートを見学して、ここで重症患者さんの対応をしている方々の姿を想像し、とてもかっこよく憧れを感じました。
- ・ヘリポートには雪国ならではの工夫(融雪用に電熱線が組み込まれている)がされていて、冬でもドクターヘリが使えるということに驚きました。
- ・薬剤部では、薬の誤りを防ぐために人が2回、機械が1回の計3回も確認、より安全に患者さんに提供していることがわかりました。
- ・周産期医療センターでは、母子ともに医療を受けられる環境が整っていて、家族が安心して赤ちゃんを預けられる環境が地元にあるということがとても頼もしく感じました。
- ・DMATや新生児の集中治療に携わる方々は、たくさんの方数を踏んで様々な困難に対応していることがわかりました。自分も得意なことから逃げずに、いろいろなことに挑戦していきたいです。